

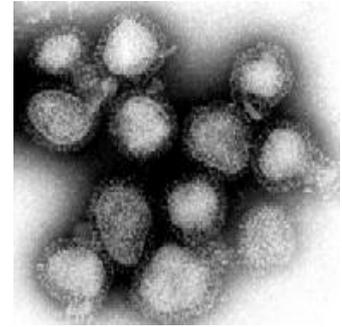
冬季にみられる感染症に気をつけよう！

保健管理センター・環境安全管理センター

(1)インフルエンザ

概要：インフルエンザウイルス(右図)による呼吸器感染症である。

通常のカゼ(風邪)と比べると、全身症状が強く出やすいことが特徴である。インフルエンザウイルスにはA型・B型・C型があるが、流行的な広がりを見せるのはA型(香港型)とB型である。



感染経路：患者のクシャミに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛沫感染とウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染により感染が起こる。

潜伏期間・症状：潜伏期間は1～4日(最長7日)。発熱、頭痛、咳、咽頭痛、鼻水、筋肉痛等を呈する。嘔吐や下痢等、消化器症状が見られる場合もある。二次的な細菌感染による肺炎等を引き起こすこともある。

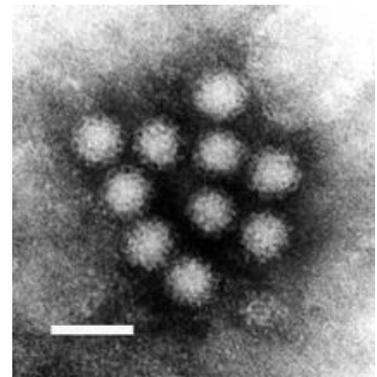
治療・予防：つらい症状を抑える対処療法と抗インフルエンザ薬による治療が中心となる。気管支炎などを併発している場合、抗生物質が処方されることもある。予防法としては、ワクチン接種のほか、手洗い、うがい、マスクの着用が挙げられる。

注意：インフルエンザは、学校保健安全法施行規則により出席停止期間が定められているため、学生の場合、学校(学生支援室学生生活係)へ連絡する必要がある。

(ホームページ参照 <http://www.tuat.ac.jp/~health/>)

(2)ノロウイルスによる感染性胃腸炎(**学園祭時注意**)

概要：ノロウイルス(右図)による感染症で、冬場に流行し、学校や会社等、集団生活の場で大規模な流行となることがある。



感染経路：ノロウイルスが口から入って感染する(経口感染)。ヒトからヒトへの感染と汚染した食料を介して起こる食中毒に分けられる。感染経路は①感染したヒトの便や嘔吐物に触れた手指を介してノロウイルスが口に入る②便や嘔吐物が乾燥して微細なチリとなって舞い上がり、そのチリと一緒にウイルスを取り込む③感染者が十分手を洗わずに調理した食品を食べた場合④ノロウイルスを内臓に取り込んだカキ(牡蠣)やシジミ等の二枚貝を、生または不十分な加熱処理で食べた場合。

潜伏期間・症状：潜伏期間は1～2日。症状の程度に個人差はあるが、悪心・嘔吐・下痢・腹痛、37度台の発熱が見られる。症状が続く期間は1～2日と短期間である。特別な治療法はなく、対処療法がおこなわれる。

治療・予防：**手を洗う**ことがポイント。特に排便後、調理や食事前には石鹼と流水で十分に手を洗うこと。便や吐瀉物を処理する場合は、手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石鹼と流水で十分に手を洗うこと。カキ等の二枚貝を調理する時は、中心部まで十分に加熱する。